

機関番号：34310

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19520273

研究課題名 (和文) ロバート・フロスト書簡集の編纂

研究課題名 (英文) The Robert Frost Letters Project

研究代表者

マーク・リチャードソン (MARK RICHARDSON)

同志社大学・文学部・教授

研究者番号：30388053

研究成果の概要 (和文)：今回助成期間を終了することとなった「ロバート・フロスト書簡集」編纂プロジェクトは、初の試みとして、アメリカ詩人ロバート・フロストのほぼ全書簡を収集しようとするものである。ハーバード大学出版局との契約により、完成稿は全3巻本として出版されることが決まっている (第1巻は2012年暮れ、または2013年初頭刊行予定)。現在、アメリカ合衆国で作業している2人の共同編集者 (ロバート・フェゲン教授、ドナルド・シーヒー教授) と編纂作業を進めており、既に3000通以上にのぼる詩人の書簡を収集してきた。この書簡集は、従来出版されてきたフロストの書簡の3倍を超える数の書簡を印刷に付すことになるはずで、20世紀におけるアメリカ詩の (また文学史の) 地平を塗り替えることとなるだろう。

研究成果の概要 (英文)：The Robert Frost Letters Project, in support of which I received the grant recently concluded, will collect, for the first time, nearly all the letters of the American poet Robert Frost. The edition, under contract with Harvard University Press, is to appear in three volumes (the first should appear late in 2012 or early in 2013). I am working with two U.S.-based co-editors (Professors Robert Faggen and Donald Sheehy). Together we have collected more than 3,000 letters. In fact, the edition will bring into print more than three times the number of letters ever before published, and change the landscape of American poetry (and literary history) in the 20th century.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：フロスト、書簡集、アメリカ文学、詩

1. 研究開始当初の背景

20年近くの間、フロストについて執筆および作品の編纂をしてきた。リチャード・ポア

リエ (Richard Poirier) と共同編集で今や標準版とされているフロストの作品集を編纂 (*Robert Frost: Collected Poems, Prose, &*

Plays[New York: Library of America, 1995])。続いて1997年には、*The Ordeal of Robert Frost the Poet and His Poetics* (Urbana-Champaign: University of Illinois Press, 1997)を出版。これは1998年度の“Outstanding Academic Book”に選ばれ、2000年9月ペーパーバック版としても出版された。その他、近年出版したものとしては、*The Collected Prose of Robert Frost* (Cambridge: Harvard University Press, 2007)がある。

共同編纂者(ロバート・フェゲン教授、ドナルド・シーヒー教授)と共に、2006年フロスト書簡集プロジェクトを立ち上げた。それ以来、1880年代から1963年の詩人の死まで期間におよぶフロストの書簡を探し出し、3000以上の書簡を(デジタルデータやコピーのかたちで)収集してきた。現在、第1巻(1874-1923)に収録するすべての書簡を選び出し、私たちの入力データをオリジナル原稿に照らし合わせ、校正し、説明が必要と思われるすべての項目に註を付すと共に、全集の序文を準備しているところである。2011年末には、ハーバード大学出版局に第1巻の原稿を提出するつもりである。

2. 研究の目的

フロスト書簡集編纂プロジェクトの目的は、初の試みとして、詩人の現存するすべての書簡を収集し、編集し、註を付したうえで、ハーバード大学出版局から3巻本の形で出版する準備をすることにある。過去に出版されたフロストの書簡集は、それぞれの編纂者が手紙を自分たちの必要に応じて抽出したもので、すべての手紙を網羅するものではなかった。そればかりか、書簡集のすべての版が今や絶版となっている。現在計画している書簡集はこの種のものとしては初の企画であり、今まで印刷されてきた書簡の3倍の量を収録するものとなるはずである。フロストの書簡は、最も著名なアメリカ文学者の類いまれなる記録となるものである。この書簡集が、20世紀のアメリカ文学史の輪郭を書き換えるものになると信じている。

3. 研究の方法

現在進めている手法は真正面からの取り組みとも言えるものである。フロストが相手に読んで欲しいと思ったオリジナルのままの原稿を作成している。重要とは思われない特徴を組み込もうとはしていない(例えば、フロストが線で消した語や、語句を挿入する際に付した挿入記号など)。こうしたことは過去のフロストの書簡編纂者や他の文人の書簡集編纂者が絶えず行ってきたことである。各書簡に付したのは読者が手紙を読む時に知っておく必要がある簡単な頭注である。

頭注は手紙の受取人や書かれた手紙の様態(署名のある手書きの手紙[ALS]や署名のあるタイプ使用の手紙[TLs]等)、そしてどの図書館に保管されているかなどを示している。各手紙の脚注には、フロストが言及した人々や文学作品を解説し、時に使用されているラテン語の英語訳などを付けた。第1巻の序文には、編集方針を明確に示しておいた。また序文はフロストの散文スタイルの特徴を論じ(彼はアメリカ文学において、散文に関する、優れた、稀にみる技巧を体得している作家の一人である)、交流を持った文通相手の幅の広さや、手紙のなかに繰り返し表れるテーマに光をあてた。付録では、フロストの文通相手および、しばしば言及される人物についての簡潔な伝記を記した辞書を用意した。更に索引も準備している。索引では単に人物名や作品名ばかりでなく、詩人の心を魅了したと思われる主題や概念(例えば詩論、教育や教育法についての考え、科学、哲学、政治などについての発言など)もまた収録するようにした。最後に、最初の2巻が出版されれば、それらは広く書評されることになるであろうし、世間の注目を集めることにもなるはずなので、第3巻には他の巻が出版された後になって日の目を見ることになる手紙のセクションも計画している(おそらく、ほとんどが個人所有のものであろう)。要するに最終目標は、面白く読めうえに使い易い、読者を念頭においた書簡集の完成である。最初の頁から最後までに読むもよし、あるいは他の読み方で(索引を頼りに、特定の主題や断片に関心のある読者のための、あるいは座って全巻を通し読みしたいとは思わない読者向けの読み方で)読むもよしという形の書簡集である。

4. 研究成果

(1) 今まで共同編纂者と協力して(デジタル・スキャンやコピーの形で)3000通以上の書簡の収集をおこなってきた。このためには米国や英国にある、フロスト原稿を収集している大小の貴重文書保管所や、個人収集家のコレクションを調査研究する必要があった。プロジェクトのこの段階は、2009年の暮れまで続けられたが、現在も偶然見つかった手紙を収集する(コピーを取る)作業を続けている。

(2) 3人の共同編纂者がアクセス可能なデータベース上に収集したすべての書簡の索引を付ける作業をしてきた。書簡集第1巻に収めるべく選び出したすべての書簡(おおよそ900通)の書き写しも終えた。そこには最も初期の手紙(詩人がまだ子供であった、1880年代半ばの日付のもの)から、第4詩集 *New Hampshire* が出版され、名声を勝ち得た1923

年までの手紙を収録している（この詩集で、詩人は4回のピューリッツァー賞のうちの第1回目を受賞している）。現在、原本のコピーと照らし合わせて筆写原稿の校正を進めており、註を付して、年末にハーバード出版局に提出する原稿の準備をしているところである。

(3) 書簡集第2巻は1924年からフロストが第7詩集 *A Witness Tree* を出版した1942年までの書簡を収録する予定である（フロストはこの詩集においてもピューリッツァー賞を受賞した）。第3巻は、1942年から1963年の詩人の死までの時期の書簡を収録することとなる。この時期、詩人は晩年の作品によって、高い名声と公人としての地位を確立した。

(4) 共同編纂者と共に、ハーバード大学出版局の編集者との打ち合わせも回を重ねており、このプロジェクトの出版予定計画を詰めている。既に書簡集3巻本の出版契約も完了した。また、フロストのご遺族や財産管理人の全面的協力も得ている。

(5) フロスト書簡集編纂プロジェクトにより、更に2つのプロジェクトを担うこととなった。ケンブリッジ大学出版局の求めに応じて、現在“Writers in Context”シリーズのフロストの号の編集をおこなっている。この本 *Robert Frost in Context* (仮称) は、書簡集第1巻の出版とほぼ同じ時期に、発行予定であり、新たな文脈で詩人を解釈しようという40の論文によって構成される。フロストに関する研究においては、最重要と目される研究者たちにプロジェクトに参加してもらえよう調整してきた。(そのなかには詩人の主要な伝記の著者である William Pritchard、Jay Parini などその名を連ねている。) またアイルランド詩人 Paul Muldoon、詩人でありワシントン D.C. にある国家芸術基金の前委員長 Dana Gioia も寄稿予定である。私自身は、論文集の編集と同時に、この書物のために2本の論文を執筆投稿予定である。

(6) 書簡集編纂プロジェクトによってもたらされたいまひとつの副産物は、新刊 *Companion to American Poetry* である。この書物もまた、私がケンブリッジ大学出版局の求めに応じて編集しているものである。このコンパニオンは、Anne Bradstreet から Frank O’ Hara や John Ashbery までのアメリカ詩を網羅している。このコンパニオンの編集の他に、私自身もフロストに関する論文、および詩人の活躍した19世紀の世紀末から20世紀にかけて書かれた詩に関する論文を執筆し

掲載する予定をしている。コンパニオンは、まだ準備段階に入ったばかりであるが、2013年の出版予定をしている

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

(1) Mark Richardson. “Wallace Stevens’ Peculium.” *Doshisha Studies in English*. No. 88 (Spring 2011): 77-94. 査読有

(2) Mark Richardson. “Mountain Intervals; or, an Episode in the Annals of American Philology.” Co-written with James Barszcz. *College Hill Review*. No. 6, Fall 2010. 査読有
<http://www.collegehillreview.com/006/0060101.html>

(3) Mark Richardson. “Meddling in Crime and Wordsworth.” *College Hill Review*. No. 5, Winter/Spring 2010. 査読有
<http://www.collegehillreview.com/005/0051101.html>

(4) Mark Richardson. “Coriolanus and the Realms of Immanence.” *College Hill Review*. No. 3, Summer 2009. 査読有
<http://www.collegehillreview.com/003/0030101.html>

[学会発表] (計6件)

(1) Mark Richardson. “In Frost’s Dive.” Paper delivered at the 22nd Annual Conference of the American Literature Association. Boston, May 26-May 30, 2011.

(2) Mark Richardson. “The Figure Frost’s Prose Makes.” Paper delivered at the 21st Annual Conference of the American Literature Association. San Francisco, May 27-30, 2010.

(3) Mark Richardson. “Notes Toward a New Edition of the Poetry of Robert Frost.” Paper delivered at the MLA Annual Conference

in San Francisco, December
27-30, 2008.

- (4) Mark Richardson. "The Higher
Satisfactions of Frost's Prose."
Lecture delivered at the 35th
Annual Fall Conference of the
Vermont Humanities Council.
Middlebury College, Middlebury,
Vermont. November 14-15, 2008.
- (5) Mark Richardson. "Robert Frost,
Napoleon, Gossip, and the 'Thrill
of Sincerity.'" Lecture delivered at
the Robert Frost Stone House
Museum, South Shaftsbury,
Vermont. August 17, 2008.
- (6) Mark Richardson. "Evolution and
Emancipation: W.E.B. DuBois's
Radical Darwinism." Paper
delivered at the 19th Annual
Conference of the American
Literature Association. San
Francisco, May 22-25, 2008.

[図書] (計1件)

- (1) Mark Richardson. *The Collected
Prose of Robert Frost*.
Cambridge:Harvard University
Press, 2007. 416 pages.
Paperback issued in 2008.
378 pages.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

マーク・リチャードソン
(MARK RICHARDSON)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：30388053

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし